

家庭学習の手引き

2026年度版

～進んで自ら学ぶ子どもたちに～

亀山市立亀山西小学校

Ⅰ. 家庭学習の意義

小 学校での学習は、子どもたちが将来社会人として自立するための基礎となるものです。特に、「聞くこと」「話すこと」「書くこと」「読むこと」「計算すること」は、欠かすことができない基礎学力の一つです。学校では、この生きる力の基礎ともなる基礎学力を高めるために日々努力していますが、学校と家庭とが連携することにより、さらにその力は何倍も高められます。この家庭学習の手引きをご活用いただき、亀山西小 学校の子どもたちの家庭学習の習慣化を進めていきましょう。家庭学習の習慣化には、次のような教育的効果が期待できます。

学習内容の定着

学校で学習したことを家庭で復習することにより、習熟・定着を図ることができます。特に漢字や計算などは、毎日繰り返し練習することでより定着していきます。

脳の活性化

読み・書き・計算を毎日繰り返すことは、脳の活性化につながると言われています。脳も手足の筋肉と同じように、毎日繰り返し使うことで活発に働くようになります。鍛えれば、鍛えるほど発達し、たくましくなって、脳がいろいろなことにうまく使えるようになります。

学ぶ習慣をつける

毎日家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身につきます。少しずつでも継続することが大きな力につながります。低学年のうちから毎日欠かさず家庭学習をすることが大切です。

家族のふれあい

本を読んでいる時、横で聞いて頂いたり、勉強が分からない時、相談にのって頂いたりするなど、家庭学習をしている子どもに家の人が関わることでコミュニケーションが図られます。家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神の安定につながり、心身も頭脳も健やかに育ちます。

がまん強さ・根気・集中力をつける

テレビやゲームの時間を決めて学習や読書等の時間を確保することが大切です。

2. 家庭学習のポイント（保護者の方へのお願い）

家庭学習の意義は前述のとおりですが、子どものやる気を引き出すようなはたらきかけをお願いします。

① 決まった時間に毎日こつこつ

家庭学習はとにかく毎日続けることが大切です。カレンダーなどで見通しを持たせ予定がある時には、先に済ませる、テレビやゲームの時間を減らすなど、時間を生み出すことも必要です。家族で十分話し合い、ご協力をお願いします。

② 集中して学習

集中して学習するために、学習に取りかかるときには終わりの時刻や、その日に行う学習内容（ページ）決めて始めるとよいです。

③ 学習中はテレビを消す

テレビを見ながら、おやつを食べながらの「ながら勉強」はやめましょう。静かに学習できる環境をつくるために、家族で協力していただけるとありがたいです。

④ 整頓された場所で、姿勢よく

机に向かって、よい姿勢で学習するようにしましょう。大人の目が行き届き、本人が安心して落ち着いて学習できる環境づくりをお願いします。

⑤ 子どものがんばりを認め、ほめて励ます

まわりの大人が、子どものがんばりを認め、ほめたり励ましたりすることにより、自信がつき、進んで学習しようという意欲が高まります。「できた」ことばかりをほめるのではなく、学習している様子をほめることも大切です。



毎日コツコツしているね。いい姿勢だね。この字、いいね。
言われる前に宿題を始められたね。前より丁寧に書けているね。

⑥ 規則正しい生活

「早寝、早起き、朝ご飯」は、生活リズムの大原則です。生活のリズムを整えることが学力向上につながることは、調査でも明らかになってきています。就寝時刻は、それぞれの家庭の事情や学年にもよりますが十分な睡眠時間を確保したいものです。

⑦ 分からないときは、教科書にもどる

学習していて分からないときは、いったん教科書やノートにもどって調べてみましょう。それでも分からないときは、学校で先生にたずねるよう声かけしてあげてください。

3. 各学年の家庭学習について

～1・2年生はこんな時期です～

- 何でも知りがっています。
- がんばったこと、よいところをほめてほしいと思っています。
- 一人で学習することや、やり方を決めることはまだ難しいです。



いっしょにして、やる気をおこす！

できたことをほめることで、
意欲が高まります。

<ポイント>

① 子どもの学習に関心を！

「家でも学習する」ことを習慣にしましょう。

- ・ 少ない時間でもいっしょにやる。いっしょにできないときは後で確かめる。

② 学習環境について

リビングの机や学習机など「いつも決まった場所」をつくりましょう。

- ・ テレビは消す。せめて音量を下げるように家族が協力する。子どものやる気につながります。

③ 家庭と学校の協力

学校からの連絡やお便りをいっしょに確かめましょう。

- ・ 毎日連絡帳を開いて見て下さい。

<学年で身につけたいおもな学習内容>

学習習慣づけの1年生

- ・ 下じきをしき、鉛筆を正しくもって字が書ける。
- ・ ひらがな・カタカナが読めて書ける。
- ・ 助詞「て、に、を、は」を使い分けて文章を書く。
- ・ 配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・ たし算やひき算が正確にできる。
- ・ 時計（アナログ）を見て、何時何分か読むことができる。



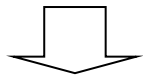
ねばり強く取り組む力をつける2年生

- ・ 配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・ 順序よく話をするができる。
- ・ 九九がすらすら言える。・ たし算、ひき算、かけ算が速くできる。
- ・ 定規を使って筆算をきれいに書きながら、計算できる。
- ・ 決められた長さの直線を正確に引くことができる。

ねんせい ～3・4年生はこんな時期です～



- いろいろなことに興味を示し、行動範囲も広がります。
- 好きなことに熱中するようになります。
- 自分でやろうとすることが増えてきますが、まだ手助けは必要です。



みと
認めて、ほめて、自信をつける！
～ポイント～

しゅくだい
宿題をみるなど手助けして応援すると、
すこ
少しずつ自分でできるようになります。

①子どもの学習に関心を！

がんばりを見逃さず、励ましの言葉をかけましょう。

- ・分からないところはいっしょに考える。
- ・子どものちょっとしたがんばりをほめる。

②学習環境について

学習を始める時間をいっしょに決めましょう。

- ・家族で話し合ってテレビやゲームの時間を決める。

③家庭と学校の協力

学校からのお便りを家族に手渡す習慣をつけましょう。

- ・置く場所を決める。
- ・食事のときに渡すなど約束する。

がくねん み がくしゅうないよう
＜学年で身につけたいおもな学習内容＞

ねんせい ぶんきてん の こ 分岐点を乗り越える3年生

- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・文章の組み立てを考えて書くことができる。
- ・かけ算やわり算など正しい手順で計算できる。
- ・小数や分数の意味と表し方がわかる。
- ・コンパスを正しく使うことができる。
- ・地図記号がわかる。
- ・国語辞典を使うことに慣れる。
- ・ローマ字を適切に読み書きできる。
- ・長さや重さの単位の関係がわかる。
- ・主語と述語の意味がわかる。

ねんせい さい かべ やぶ 「9歳の壁」を破る4年生

- ・同分母の分数のたし算、ひき算ができる。
- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・国語辞典や漢字辞典を手元において使い方に慣れる。
- ・地図を使って見知らぬ場所や地名を調べることができる。
- ・文と文のつながりを考えながら、指示語や接続語を使う。
- ・47都道府県の位置が分かり、正しく名前を書くことができる。
- ・分度器を正しく使うことができる。
- ・わり算の筆算ができる。
- ・倍を使った文章題が正しくできる。
- ・小数のかけ算・わり算ができる。

ねんせい ～5・6年生はこんな時期です～



- 自分でできているので、言葉かけに配慮が必要です。
- 得意な教科や苦手な教科を意識するようになります。
- 体も心も急激に変化します。バランスがくずれ、不安定になることもあります。成長を見守ってほしいと思っています。

うなが みまも
促したり見守ったりして

て き
手はかけずに、気にかける！

こ はなし き せいちょう あたみ まも
子どもの話をよく聞き、成長を温かく見守ることで、
しょうらい ゆめ もくひよう どりよく
将来の夢や目標をもって努力するようになります。

<ポイント>

①子どもの学習に関心を！

とくい きょうか みまも にがて きょうか うなが じりき がくしゅう すす
得意な教科を見守り、苦手な教科を促して、自力で学習を進めるように
みまも
見守りましょう。

- ・子どものちょっとしたがんばりをほめる。
- ・他の子と比べず、昨日のわが子と比べてほめる。

②学習環境について

じぶん あ せいかつ
自分に合った生活リズムをつくりましょう。

- ・夕食前、早朝など、学習に取り組む時間帯を決める。

③家庭と学校の協力

ししゅんき わか こ こころ からだ き
思春期を迎え、子どもの心と体について気になることがあれば、ご相談下さい。

- ・ふだんから子どもの話をよく聞いてあげて下さい。

がくねん み がくしゅうないよう <学年で身につけたいおもな学習内容>

ねんせい 大きくジャンプアップする5年生

- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・今まで習った漢字を使った熟語の8割以上が書ける。
- ・歴史に残る古文のいくつかを暗唱できる。
- ・パソコンでローマ字入力ができる。
- ・小数のかけ算・わり算ができる。
- ・分数のたし算・ひき算ができる。
- ・百分率を使った問題を解くことができる。
- ・振り子のきまりについてだいたい説明できる。
- ・いろいろな生き物の誕生と成長についてだいたい説明できる。
- ・日本の主な産業についてだいたい説明できる。
- ・国土のようすや環境と自分たちの生活とを関連づけてだいたい説明できる。

ちゅうがっこうせいかつ きぼう も ねんせい 中学校生活に希望が持てる 6 年生

- ・ 小 学校で習 得 すべき漢字のすべてが読め、8 割以上の漢字が書ける。
- ・ 小 学校で習う漢字を使った熟語の8 割以上が書ける。
- ・ 歴史に残る古文に親しみ、音読できる。
- ・ 目的や意図に応じて自分の考えをまとめ、1000 字程度の文章が書ける。
- ・ 分数のたし算・ひき算・かけ算・わり算ができる。
- ・ 歴史上の人物や出来事、現代の世の中のしくみについて、だいたい説明できる。
- ・ 日本や世界の主な国々の位置を正しく示すことができる。
- ・ 水溶液の性質、てこの規則性などについてわかる。
- ・ 生物の体の働き、土地のつくりと変化のきまりについてわかる。
- ・ パソコンでローマ字入力ができる。

ちゅうがっこう がくしゅう ねんせい お 中学校につながる 学 習 (5,6 年生向け)

こうがくねん ちゅうがっこう がくしゅう い しき ひつよう しょうがっこう くら
高学年になると中 学校の学 習 についても意識していく必要があります。ここでは、小 学校と比べ
て中 学校では何が変わるのかとその変化に向けた取り組みのポイント について述べます。以下を参
考にいただき、話し合う機会を持っていただけたらと思います。

きょうか せんせい か ◆教科ごとに先生が変わります◆

こくご すうがく しゃかい り か えいご おんがく び じゆつ ちゅうがっこう きょうか おし せんせい か
国語、数学、社会、理科、英語、音楽、美術、…。中 学校では、教 科ごとに教える先生が変わり
ます。小 学校のように、担任の先生がほとんどの教 科を教えるわけではありません。よって、ノート
の整理やまとめ方、宿 題の出し方などが先生によって違ってきます。それぞれの先生の教え方にいか
にはや 慣れて対応していくかが大事になってきます。

か た か ◆テストのやり方が変わります◆

しょうがっこう かくきょうか ひと がくしゅう お ちゅうがっこう ちゅうかん
小 学校では、各教 科で一つの学 習 が終わるたびにテストがありますが、中 学校では中 間テスト
や期末テストといった定期テストに変わります。テストの回数は減りますが、テストの範囲が広くな
るのです。そこで、日々の学 習 の積み重ねや復 習 を中 心としたテスト対策が必要となってきます。

せ い か つ か ◆生活のリズムが変わります◆

ちゅうがくせい ぶ かつどう はじ がっこう す じ かん なが か てい じ かん かぎ
中 学生になると部活動も始まり、学校で過ごす時間が長くなり、家庭での時間が限られたものとな
ってきます。小 学校のときよりも、疲れて家に帰って来ることが多くなります。その中で家庭学 習 の時
間を確保して、予 習 、復 習 を行 うようにしましょう。